

授業科目	憲法演習
演習題目	憲法学の世界
担当教員	南野 森
授業の目的	<p>憲法学を勉強することを通じて、「強い頭」を作ることが一番の目標です。時間的・心理的余裕のある学部生時代に、良質の論文や判決文をじっくり読み、考え、議論しておくことが、将来どのような方向に進むにせよ重要だと思います。</p> <p>社会に出れば on the job training で仕事に必要なノウハウや知識はどんどん学ぶことになります。学生時代には、そのようなすぐに必要ですぐに役立つ知識や技能ではなく、じっくりと腰を落ちつけて、法的なものの考え方や多様なものの見方・価値観、仲間との議論を通じて自己の知見を深める技能、また、他者を説得するための丁寧さ・根気強さ、総合的な人間力・人当たりの良さといった、大学時代にしか学べないものの社会に出れば必須となる能力を磨くことをこそ意識してほしいと思います。</p> <p>また、南野ゼミでは、ゼミ本来の活動に限らず、課外活動（コンパ・東京研修旅行・他大学との合同ディベート合宿など）への積極的な参加等により、（ゼミ卒業生や担当教員も含む）ゼミメンバー同士の親睦を深めることと、ゼミ生の「世界」を広げ「人間的魅力」を高めることをも目標とします（ただし、課外活動への参加は義務ではありません）。</p> <p>大学は「出会いの場」です。在学中に、人と出会い、知と出会い、自分の世界を広げておくことを一所懸命に追求してほしいと思います。</p>
履修条件	<p>とくにありませんが、楽しみながらも真面目に勉強したいと思っている人が望ましいです。これまで学業成績の面で必ずしも「順調」ではなかった人や、大学生活の面で必ずしも「充実」させられなかった人でも、心機一転、これから「新しい自分」になるべく頑張ろうというやる気さえあれば、大歓迎です。快活な人・快活になりたい人が好ましいです。</p> <p>なお、ゼミ生の進路はバラバラです（それが当ゼミの良いところでもあります）。国家・地方公務員、法科大学院、研究者養成大学院、マスコミ、そして実に様々な民間企業など、卒業生はとても多様な方面に進んでいます（「南野ゼミの HP」でゼミ卒業生の進路一覧を公開しています）。したがって現時点でまだ進路を決めていない人も歓迎します。多様な職種にいるゼミ卒業生を紹介することもできるので、進路・就活の相談に乗ってもらえると思います。また、東京研修旅行や卒業生とのコンパなどで「人と出会い」、将来の進路を決める（変える）学生もいます。</p>

<p>教科書・参考書</p>	<p>各回のゼミ報告のテーマに応じた参考文献は、適宜指示・配布します。</p> <p>憲法学の一通りの議論を理解している自信のない者は、開講までに（春休み中にでも）定評ある体系書を通読しておくことを勧めます。たとえば、樋口陽一『憲法〔第4版〕』（勁草書房）や、長谷部恭男『憲法〔第8版〕』（新世社）が良いでしょう。</p> <p>例の『憲法主義』（PHP 研究所、PHP 文庫版もあります）は、ざっとでも通読しておいてほしいです。ああ見えて、意外に深くて良い本ですので（笑）。</p>
<p>授業の計画・内容</p>	<p>春休み中、初回までにゼミ生と相談して決定します。ゼミ生の数によりませんが、15 人程度であれば、最初の数回を複数メンバーでのグループ報告とし、残りの回は、毎回一人ずつ好きなテーマで個人報告をしてもらうことにしています。2023 年度第 21 期ゼミは 17 人でしたので、前期の冒頭に 4～5 人のグループによる報告を 2 巡（1 巡目と 2 巡目とはグループの構成を異なるものにします）、それ以降に個人報告を 1 巡としました。</p> <p>テーマ選びもレジュメの作成も一人で行う個人報告は、孤独な準備と思索、そしてプレッシャーとの闘いが苦しいかもしれません。が、自由気ままに自分の好きなテーマを徹底して勉強することができるという魅力もあります（報告後に、さらに研究を深め論文等にまとめる人もいます）。</p> <p>グループ報告は、必ずしも自分のやりたいテーマではないテーマを扱うことになるかもしれませんが、新しくゼミメンバーとなった人々と一緒に（できるだけ元々の知り合いではない学生同士が学年を超えてグループになるよう教員が工夫します）一つのテーマを学ぶことで、「人と出会う」きっかけにもなり、他人と協調して一つの成果を作り上げることを学ぶチャンスともなります（社会に出ると至る所で求められる能力の一つです）。全く知り合いではなかった人とたまたまグループが同じになり、その結果、大親友になって卒業してからも仲良くしている、という話もよくあります（ですから、知り合いや友達のあまりいない人も心配せず、一人で飛び込んできてください）。</p> <p>いずれにせよ、ゼミとして統一的な研究テーマを置くわけではなく、広い意味で憲法に関わるものであれば、各自が好きなことを勉強・報告できるのが南野ゼミの一つの特長だと思います。各自の選ぶテーマについては、判決を素材とするもよし、学説や論点を素材とするもよし、あるいは現実の社会問題・政治課題を素材とするもよし、です。</p> <p>過去の南野ゼミ生がどのようなテーマでゼミ報告を行ってきたかを知りたい場合は、「南野ゼミのHP」から各期の「ゼミ風景レポート」を見て下さい。</p> <p>参加者は、初回までに、報告しようとするテーマ（案）を（少なくとも</p>

	<p>も1、2つ程度) 考えておくことが望ましいです。春休み中のテーマ選び、憲法学習のための参考書として、たとえば次のようなものを使ってみると良いかもしれません。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 大石＝石川(編)『憲法の争点』(有斐閣、2008年) 2) 安西ほか『憲法学の現代的論点〔第2版〕』(有斐閣、2009年) 3) 芹沢ほか(編)『新基本法コンメンタル憲法』(日本評論社、2011年) 4) 穴戸＝林(編)『総点検 日本国憲法の70年』(岩波書店、2018年) 5) 山本＝横大道(編)『憲法学の現在地』(日本評論社、2020年)
<p>成績評価の方法</p>	<p>平常点によります。無断欠席をした者には、それ以降の参加を認めません(単位も認定しません)。休まざるをえない場合は、事前に連絡し許可を取ってください(例年、部活や就活、病気や家庭の事情等で欠席せざるを得ない学生も当然います)。</p> <p>また、初回コンパ・最終回コンパ・ゼミ同窓会の計3回だけは原則として出席を必須としますが、それ以外の課外活動への出席は自由です。その出欠が成績評価に影響することはありません。</p> <p>ただ、2008年度第6期ゼミから(コロナ禍により課外活動を中止した2020年度、2021年度を除き)毎年続けてきた①「東京研修旅行」(最高裁や官庁・企業・マスコミ・弁護士事務所・国会など、ゼミ生の進路・希望に合わせた施設等を訪問します。2022年度は11月に、国会、国会図書館、最高裁、文部科学省、慶應義塾大学法学部の憲法ゼミ、朝日新聞社、全日空と羽田空港バックヤードを訪問しました。2023年度は12月上旬に実施予定。)と、②「ディベート合宿」(一橋法・早稲田法・早稲田政経・慶応法の憲法ゼミの学生100名以上が参加、2020年度～22年度は中止、23年度は不参加。)には、とても貴重な経験になること請け合いですので是非積極的に参加してほしいと思っています。</p> <p>また、夏に「九重合宿」、年度末に「ゼミ旅行」という、純粋な親睦目的の企画を実施することもあります。</p> <p>なお、金銭的な理由だけで課外活動に参加ができないメンバーがいるという事態は絶対に避けたいので、「出世払い」で教員が必要な費用を貸すこともあります。金銭的な負担を心配する必要はありません。</p>